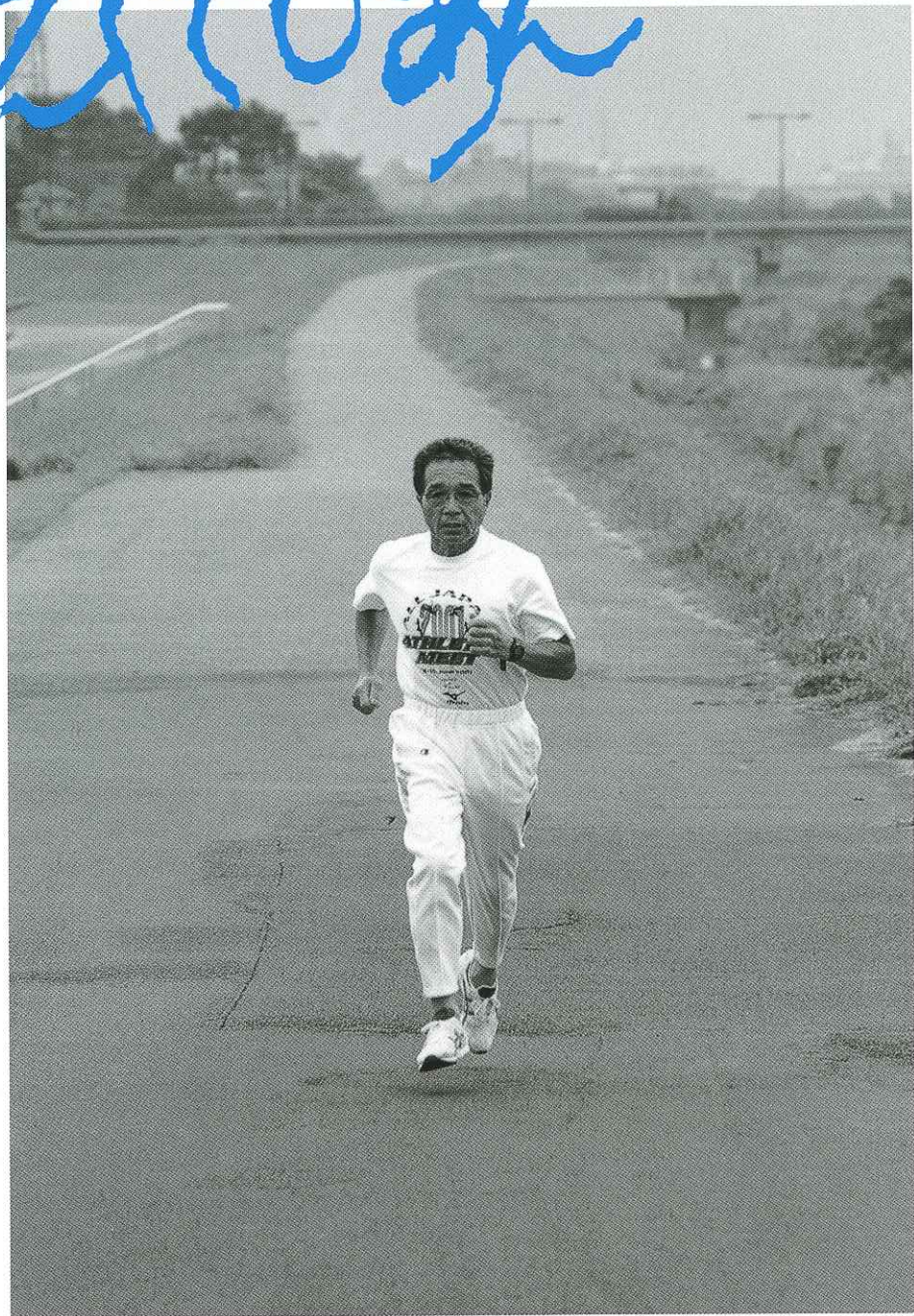


# 立川

7

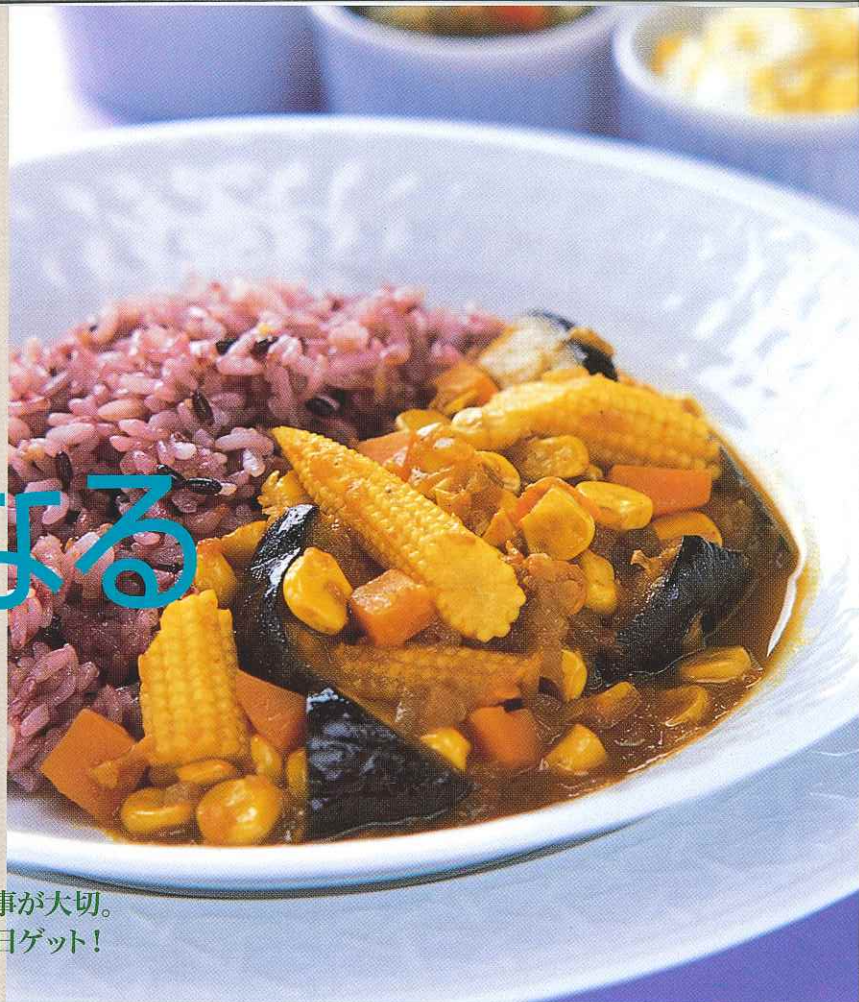
立川と語ろう 立川に生きよう  
July 2005  
écoutez bien Vol.23 No.248



# 主食にも 副菜にもなる 穀物

【米 & とうもろこし】

元気な心と体を作るには、栄養のバランスのとれた食事が大切。  
微量ミネラルは、主食にもおかずにもなる穀類から毎日ゲット!



連載をしめくく  
のは野菜カレー。  
日本クッキングス  
クール校長の須田  
先生が、穀物を  
テーマに考えて下  
さったメニュー。  
作り方は簡単で、  
食べればだれもが  
喜ぶ家庭料理の王  
様。何よりもミネラ



幸町農産物直売所

ルたっぷりなのがいい。今回はカレーにとうもろこしを、ご飯には目先を変えて黒米と五穀を入れた。もっちりとしたご飯に、スパイシーな野菜カレーがサラッとからまる。ヤングコーンのシャキシャキ感がさらにおいしい。「市販のルーは使わないの。スパイスだけでこうなるのよ」と須田先生。黒米を入れなくて白米に五穀を炊き込んだ五穀米は、もっとあっさりした食感になる。おなじみのメニューもひと工夫でござそうだ。



自家製の「はちみつ」なども並ぶ

夏の幸町直売所はとてものしい。新鮮で豊富な野菜が待っていてくれる。

今日摘み取っても明日また生

えてくるという〈あしたば〉は

宮岡 廣さん(幸町)が出荷。

おひたしやゴマ和えでも、揚

げて炒めてもごはんのおかずにとてもおいしい。キャベツ、小松菜、さやえんどう、トマト、きゅうり、ネギ、ふき、大葉、大根、じねんじょ、玉ねぎなどに季節の切り花や鉢植

えが鮮やかな色を添える。棚の上には自家製の蜂蜜や、ちょっと小ぶりな烏骨鶏の卵が並ぶ。出荷品のひとつひとつに生産者の名前。食卓で野菜を頂くたびに生産者の皆さんの笑顔が浮かぶ。健康を保つには地元安心野菜が一番。まさに「げんき、産直、野菜は味方!」



朝取りの新鮮卵

調理指導：須田享子(日本クッキングスクール)

写真：五来孝平

## ●野菜カレー

夏の定番メニュー

### レシピ

材料(4人分)

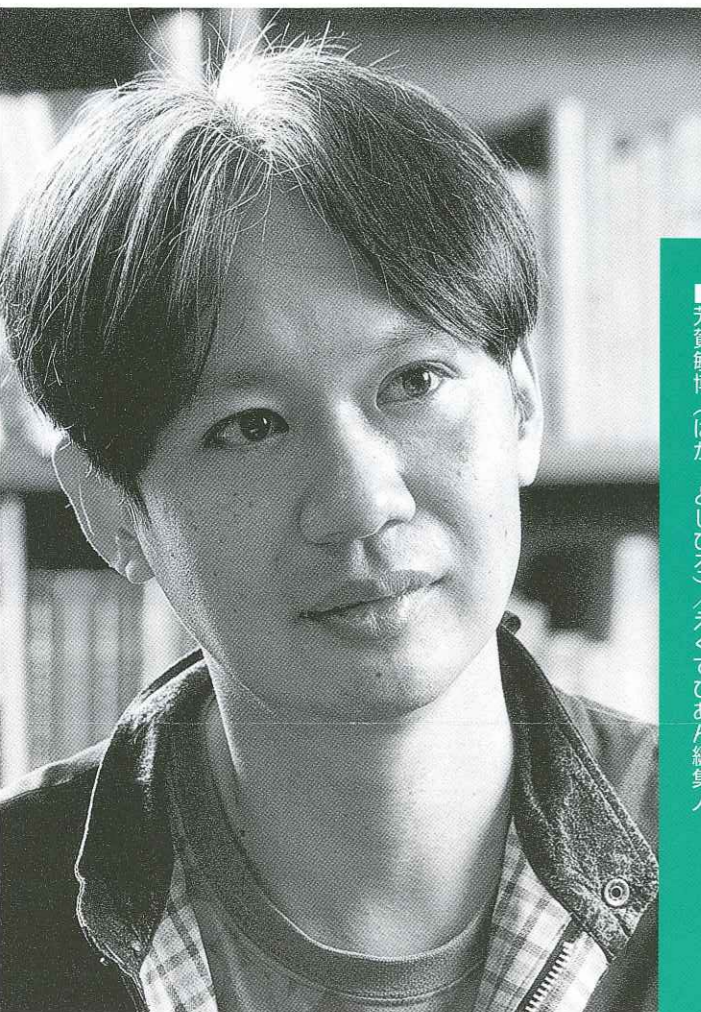
とうもろこし 1本	ガラマサラ 小さじ 2
ヤングコーン 8本	塩、こしょう、バター、
なす 2個、にんじん 80g	サラダ油
トマト 1個、玉ねぎ 1個	黒米入り五穀米
にんにく、しょうが 各 1片	米 2カップ、
セロリー 40g	水 2.5カップ
クミン 小さじ 1	黒米 大さじ 2
ターメリック、フェネル、	五穀 1本(25g)
コリアンダー 各小さじ 2	薬味
レッドペッパー 小さじ 1/3	らっきょう、ゆで卵、
りんご(すりおろし) 1/4 個	ピクルス
スープ 4カップ	

### 作り方

- 1 (a) はみじん切りにする。
- 2 トマトは湯むきして 1.5cm 角に切る。
- 3 バター大さじ 2 を溶かし玉ねぎをよく炒め、しょうが、にんにく、セロリーを加えきつね色になるまで炒める。
- 4 (3) に (2) と (b) のスパイスを加えて炒め、(c) と塩、こしょうを加えて 15 分くらい煮る。
- 5 とうもろこしは皮ごと電子レンジで 4 分加熱して粒をほぐす。ヤングコーンは茹で 3 つに切る。
- 6 なすは乱切りにして水にさらしアクを抜く。にんじんは 1cm 角に切る。
- 7 鍋にサラダ油大さじ 2 を熱し (6) を炒め (4) に入れて煮込み、(5) を加えガラマサラを入れて味を調える。
- 8 洗った米、黒米を分量の水に 1 時間つけ、五穀を混ぜて普通に炊く。
- 9 器に (8) を盛り、野菜カレーをかけ薬味を添える。

※りんごの代わりにマンゴチャツネ、ヨーグルトを入れてもよい。

# 面白い笑いは、8人が笑い2人は怒ります



於：曙町 えくてびあん編集工房で 写真：五来孝平

## お笑い作家 福富 一郎さん

■福富 一郎（ふくとみ いちろう）／昭和35（1960）年大阪生まれ。コンピュータ関係の会社勤務から95年、一転してフリーライターとして独立。声優劇団の脚本や雑誌、ホームページ、書籍の編集、執筆などを経て2000年から吉本興行大阪本社フレンとして企画に携わる一方、CM、イベントの企画も多く手がける。2002年中央公民館で「笑いの作り方教室」を開催するなど、笑いを核にした幅広い活動を行っている。錦町在住。

■芳賀敏博（はが・としひろ）／えくてびあん編集長

**芳賀** 今日はよくいっしょにいました。福富さんと知り合ったのはちょうど立川にいらしてすぐの頃でした。それからどのくらい経ちますかね。

**福富** 3年以上になりますね。

**芳賀** その前は大阪にいらしたわけですが、お笑いの世界との関わりはいつ頃から？

**福富** たまたま誘われて吉本興行本社と関わるようになったのは2000年からですけど、僕自身は1995年7月4日をフリーライターになった「独立記念日」と言っています（笑）。

**芳賀** アメリカ合衆国みたい（笑）。それまではどんなことをされてたんです？

**福富** コンピューター関係の会社にいま

した。あの世界はだいたい35歳になると古手ということになって先が見えてくる。いっそ自分のやりたいことをやろうと……。東大阪市の生まれで小さい頃から吉本新喜劇とかを見て育ちましたし、小学校の頃は友だちとコンビを組んで漫才をやっていました。だから、芝居とかお笑いは自然に入り込めたんです。

**芳賀** 新しい笑いを創りだすお仕事の方には申し訳ないんですが、最近はテレビで若い芸人さんたちが出てくるお笑い番組を見ても、ついていけないことがあるんですよ。どこが面白いんだろう？ って。僕がオジさんになってしまったせいかな。

**福富** お笑いと言いついても時代の中で輝くものは変わりますよね。僕も小

い頃のアイドルは桂三枝さんですから今の若手とはだいぶ違う（笑）。面白い笑いで、10人のうち8人が笑っても2人は笑えないものだと思うんです。笑いの本質は人間心理の揺れの中で優者の劣者に対して持つ感情のひとつでもあります。同じ状況で自分を優者と感じるか劣者と受けとめるかは人によって、あるいは時々によって変わりますが、笑えなかったり怒りを感じることもある。そういう攻撃性や毒も笑いの力には含まれていると思います。まあ、笑えないというには技術や工夫が未熟な場合も少なくないですけど……。

**芳賀** そうですよね。人を笑わせる、まして笑わせ続けるのには大変なエネルギーが必要だと思います。お芝居でも悲劇より喜劇が難しいそうですし、漫画でもギャグ漫画家はものすごくストレスがたまると言いますでしょ。お笑い作家というのはどうなんですか？

**福富** う〜ん。好きだからできるんでしょうね。これまでに書いたコトは発表していないものを含めて2000くらいありますが、新しい笑いのアイデアが浮かんだ時は、思わず自分でも笑ってしまいます。お笑いタレントと打合せながら彼らのアイデアを具体的な形にしたり、舞台やイベント、テレビ番組の企画などをやるほかに、<どぶねずみ男>の芸名でライブ公演に出たりしていますけど、結局、僕という人間をいちばん引き出してくれるのがお笑いだったんですね。だから続いているのかな。

**芳賀** それって幸せなことですよ！ たぶん日本人はずっと昔から笑うことが大好きだったんじゃないかと思うんです。なんといっても、アメノウズメが下半身むき出しで踊って神さまたちが大笑いするという芸能の起源神話を持つ国なんで

すから。それが、芸能が社会制度の中で認知されるに従って笑いの要素が排除されていく。権力の中枢に近くなった芸能ほど、みやびで格調高いけれど笑えない（笑）。それは最近のお笑いについてもいえるんじゃないかなと思うところがあります。東京にも浅草を中心にした笑いの伝統があったわけですけど、テレビなどを見ていると今や西高東低。吉本などの関西勢にすっかり押されている。これはどういうことなのでしょう？

**福富** さきほど言ったように笑いは攻撃にもなります。特に権力への。だから権力に関わる人たちにとっては排除したい。しかし排除されたらそこから逃げて、したたかに形を変えて生まれ続けてきたのも笑いです。東京は、よく悪くも権力の中枢で発信基地です。関西にもテレビ局がありますが、結局ローカル。大阪のテレビで人気者でも全国的には無名という芸人さんはたくさんいます。ギャラも大阪と東京ではまったく違う。吉本にはお笑い養成所があって毎年3000人くらいの若い志望者が入ります。そこで一年間ものすごい努力と競争をする。その中を生き残ってきた人と、今浅草あたりで活躍している若手タレントさんを比べると実力はやはり違います。大阪には劇場がたくさんあって客席の反応でじかに鍛えられる。若手が出る劇場のお客さんは女子高生ばかりですからね。昔の徒弟制度のような修業はなくても、関西の芸人には東京に出るまでが下積みなんです。そこから這い上がってくる違いはあると思います。テレビで人気が出るとそれに流されてしまう人が多い。ネタを深めるとか間の練習とかの時間がない。そこで下積みのあるなしの差が出てくる。結局、自分の時間を有効に使った人が長続きする。そんな気がします。

**芳賀** 厳しい世界だなあ。

**福富** 若いお笑い芸人はほとんどアルバイトをしないとやっていけない。で

も、彼らの中から新しい笑いが生まれてくるんです。やってくるお客さんも、最近は音楽と同じようなライブハウス感覚というのかな？ 自分の感覚に合う人のところに通う感じがありますね。そういう中から若いタレントも育っていくのだと思います。僕にしても、大阪でイベントなどで一緒に仕事をしていた若手が東京でも知られるようになってきた。彼らの中から時代を創る笑いが生まれたら、嬉しいですね。

**芳賀** すでに3年以上住んでいらっしゃる立川はいかが？

**福富** いい街だと思います（笑）。が、笑いということではどうかな？ ひとつには人が集まりにくい。都心と距離があることもありますが、駅を降りるとすぐにデパートはあっても、商店街が見えない。商店街が元気な街というのは共通して、小さな店の集まった突き当たりデパートとか大型店があるんです。そういう街で笑いの文化も盛んになる。大阪「大なんば祭」にも関わっているんですが、一店舗は小さくても集まれば大きな力になるし、お笑い芸人にはとても大きなスポンサーです。なんば戎橋筋商店街でやったことですが、商店街の中で体力測定をするというだけのイベント。お笑いタレント・なかまきんに君に、ものすごく人が集まった。立川もたくさんの人が訪れる街ですから、その人たちが回遊して楽しめるように工夫すれば、いろいろな仕掛けができると思います。

**芳賀** 世の中を見ると笑えない話題が多い昨今ですが、そういう時こそ笑いが必要なのでしょうね。昔から不況のときはお笑いが盛んになると言うし……。

**福富** それはどうですかね？ かれこれ20年ずっと不況ですから（笑）。でも、笑いは絶対になくならないと思います。笑いは集団で生きる動物にだけ生まれるんだそうです。猿や馬も笑うとか。笑いを忘れたら、人間は猿とか馬以下になってしまう（笑）。

富士見町	西立川児童館	富士見町1-23-6 525-0571
	フルーツ&ベジタブル 三登屋	富士見町1-32-17 522-3021
	有料老人ホーム サンビナス	富士見町1-33-3 527-8866
	飯塚 花店	富士見町1-33-5 522-5684
	酒 ESPOA おぎの	富士見町4-17-7 522-4500
	株式会社 立川印刷所	富士見町5-6-15 524-3268
	SHOP99 立川富士見町店	富士見町6-15-3 540-1799
砂川町	JA経済センター 立川店	砂川町2-44-3 536-1824
	JA東京みどり 立川支店	砂川町2-44-3 536-1821
	多摩中央信用金庫 砂川支店	砂川町4-2-3 535-4411
	山梨中央銀行 立川支店	柏町1-16-1 536-0871
	ペーカリー リオンドール	柏町3-3-5 535-4882
柏町	ピーコック 玉川上水店	柏町4-1-2 538-3861
	管家 医院	柏町4-2-15 536-4602
	トレスショップポワソン・ルージュ	柏町4-56-10 534-6567
	うなぎ専門店 うなちゃん	柏町4-61-13 536-6240
	レストラン&BAR WEST PORT	柏町4-64-3 536-4569
泉町	東京消防庁 立川消防署	泉町1156-1 526-0119
緑町	陸上自衛隊 立川駐屯地	緑町5番地 524-9321
曙町	うなぎ しら澤	曙町1-9-21 524-5061

えくてびあんの輪  
立川と語ろう 立川に生きよう  
えくてびあんは  
リストのお店にいつもあります

今月は 富士見町・砂川町・柏町・泉町・緑町・曙町のお店です。

有限会社 クスミ不動産	曙町1-16-2 522-4739
不動産 大晋商事	曙町1-23-9 525-3110
ヤマハエブリプラス立川店	曙町1-27-10 523-1431
蕎麦懐石 無庵	曙町1-28-5 524-0512
TABACCONIST ゼフィルス	曙町1-28-9 524-0514
ピストロ シェ・タスケ	曙町1-28-14 527-5959
あら井 鮨 総本店	曙町1-30-13 522-2957
Cut Studio SOFIA	曙町1-30-21 528-3241
三田花店 ルミネ立川店	曙町2-1-1-1F 527-5587
KIRIN COFFEE ルミネ店	曙町2-1-1-1F 527-2322
オリオン書房 ルミネ立川店	曙町2-1-1-7F 527-2311
東京赤十字血液センター	曙町2-1-1-9F 527-1140
和生菓子製造直売 日の出屋 本店	曙町2-2-18 522-3308
オリオン書房 第一デパート店	曙町2-2-25-3F 523-3311
みずほ銀行 立川駅前支店	曙町2-4-6 522-5151
みずほ銀行 立川支店	曙町2-4-6 524-3121
お菓子の家 エミリーフロアゲ 本店	曙町2-5-1-1F 527-1138
カフェ クリムト	曙町2-5-1-2F 526-3030
宮地楽器 MUSIC JOY 立川北	曙町2-5-18-7F 527-6888
三井住友銀行 立川支店	曙町2-6-11 522-2151

# KARATEは世界の武道

## 立川・佐藤塾が実現させた国際選手権大会

立川に本部道場のある空手塾が国際選手権大会を実現させた。

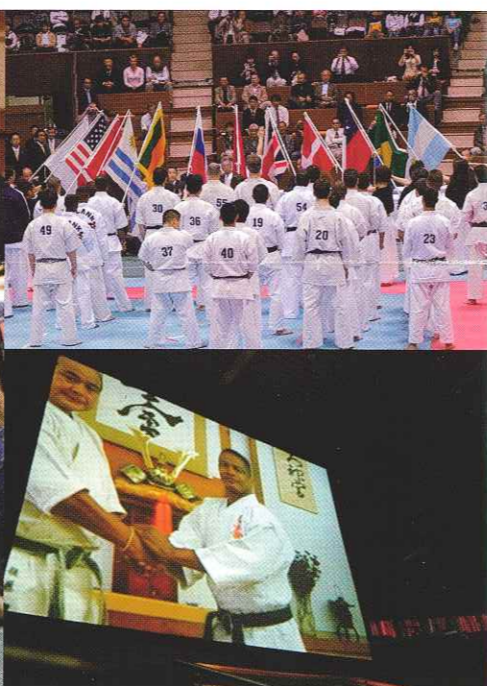
極真空手第一回世界チャンピオンで日本空手道佐藤塾塾長の佐藤勝昭さんが、自塾のルールをNPO法人化して広く公開、賛同する世界各国の空手家が参加して第一回国際選手権大会が4月17日、国立代々木競技場で開かれた。夢は、日本の武道精神にもとづくルールで空手道が五輪競技となることだ。



参加国の国旗に囲まれての選手宣誓



決勝の大西健太郎(正面)・松本勇三(背中)戦



急逝した空手家ウィリアム・オリバーを追悼



第一回少年全国選手権大会も開かれた



佐藤さんが理事長となりNPO法人空手道ポイント & ノックアウト ルール協会を設立したのは昨年9月。ルールを非営利団体として独立させるのは異例だが、流派や道場・塾の違いを超えて世界の空手家が同一ルールで競い合えるようにしたいという、長年の願いが込められている

もともと佐藤塾のルール。伝統空手のスピードと極真系フルコンタクトのダイナミックさを生かしつつ、武道としての空手の特質を重視している。すでに全国選手権大会を19回行っているが、20回を期して世界の空手家に同一ルールでの参戦を呼びかけた。

名空手家であり指導者としてニューヨークで活躍するウィリアム・オリバー氏も全面的に賛同し来日を約していたが、昨年11月急逝。第一回の国際選手権大会はその追悼大会にもなった。12カ国約50人の選手が参加し、トーナメント戦の結果、大西健太郎が、2002年、昨年と決勝で敗れている松本勇三を下して、初めてチャンピオンの座に就いた。

前日の4月16日には、同じ会場で第一回全日本少年空手道選手権大会が開かれ、佐藤塾に通う小中学生も大活躍した。「海外の人たちは日本の武道の心に尊敬の念を持ってKARATEを求めています。そのためにも武道の心、道を求める空手を広めたい。子どもたちには空手を通じてたくさんの感動を経験してもらいたいです」——国際選手権大会とともに回を重ね、いつか立川の道場から空手道オリンピック選手が出る日を待ちたい。



大会審判長として試合を見守る佐藤塾長



大会後のパーティー。武道の心を求める各国の空手家が交流した



立川市柴崎町・佐藤塾本部での稽古



立川と多摩地域が  
もっと楽しいホームページ

多摩てはこ  
ネット

http://www.tamatebako-net.ne.jp/

多摩てはこネット編集工房  
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F  
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609  
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄

真如苑提供番組くじょうらくがじょう

スカイパーフェクトTV 216ch、マイテレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分  
午後7時15分～7時30分  
再放送/火曜 午前9時～9時15分  
午後7時45分～8時  
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十九年

真如苑

築崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

SEIBU  
西武信用金庫

幸町支店

〒190-0002 立川市幸町2丁目11番地34  
tel.042-537-3101 (代) fax.042-537-3648

私たちは「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とお客さま……  
いろいろなコミュニケーションがあります。  
私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、  
行なっている会社です。

と

大廣社は、企画デザインから  
印刷加工までを自社内で完結しています。

PLANNING・DESIGNING  
PROCESSING・PRINTING  
大廣社  
042-527-1911  
〒190-0022  
東京都立川市錦町15-17-13  
東京都立川市錦町15-17-13  
FAX.527-1949  
E-mail info@daikousya.jp

えくてびあん流

## 立川発・芳醇の本たち

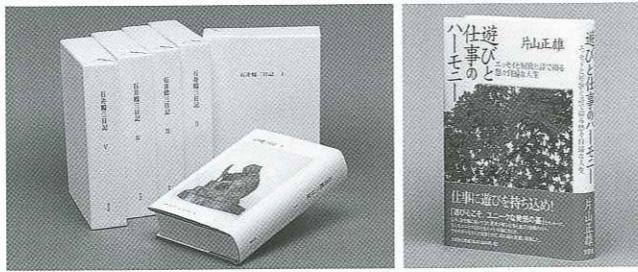
立川は豊かな文化の水脈を秘めている。最近、改めてそう思う本を見つけた。

まずは、一番町の岩部定男さんの美術出版社「形文社」から出た『石井鶴三日記』（全五巻）。吉川英治の

小説「宮本武蔵」の挿画などでも知られる彫刻家がつけていた明治～昭和戦後までの日記と未公開の絵画、彫刻、デッサンなどを渉猟し書誌もついた労作。

相撲好きで横綱審議委員もつとめユニークな逸話の多い大家だが、膨大な日記は美術史上貴重な資料。立体造形家としての実像も明らかにし、再評価のきっかけにもなりそうだ。

一方、自伝的エッセイに短歌、詩も盛り込んだ『遊びと仕事のハーモニー』（文芸社）を出版した上砂町在住の片山正雄さんは、長



形文社刊『石井鶴三日記』全5巻

片山正雄著『遊びと仕事のハーモニー』

年技術者として働いてきた元サラリーマン。奔放な性格の祖母、やはり技術者だった父、恵まれた生い立ち、戦災に遭い苦学して大学を出、戦後間もない企業での研究者生活などの回顧は、ちょっとした小説より面白い。

そうした中で「仕事に遊びを持ち込め」と常に前向き。好奇心いっぱいでお金より仕事の面白さや人との交流を楽しむ生き方は、人生の達人と呼ぶべきだろう。これから定年を迎える方やすでに迎えられた諸兄にぜひ読んでみてもらいたい。元気になること間違いなし。

この人この店 24

焼きたてパンの店

## ヴァイツェンブロー

田中 真次さん

「ドイツの味がする!」——それがヴァイツェンブローのドイツパン。おいしいから通いたくなります。すすめられるままに試食すれば、サワー種やぶどう種の天然酵母が独特の酸味を出して、ほのかな香りとともに口中に。「ドイツパンは3つでひとつの食べ物。パンとバターと具です」。説明してくれるのはオーナーでありパン職人の田中真次さん。手巻き寿司の感覚で、なんでもトッピングして食べてしまうのがドイツパンの食べ方。なるほどなるほど、この酸味はどんな具材も受け入れそう。傍らのフランスパンも一口入ると「あっ」と声が出てしまうおいしさ。量も値段も満足の手作りサンドウィッチ、注文してから中身をはさんでくれるコッペパンサンド、手抜きのないケーキ感覚のデニッシュパン。いつ行っても店の奥、かまどの前で立ち働いている田中さん。「人見知りするんです」とおっしゃるけれど、根っからの職人なんですね。



どっしりとしたドイツパン各種



〒190-0022 立川市錦町1-6-19  
TEL 042-527-2176  
営業時間 午前8:00～午後7:00  
定休日 日曜日

写真: 五来孝平

◆ タチカワ誰故草 24 ◆

## 何事も招き果てたる

森 忠明

「こんなに美しいバイオリン奏者を、なんで細江さんはもっと近づいて撮ってくれなかったんですかねえ」。

昨年『えくてびあん』12月号の表紙の人・宇野末祐紀さんの写真を見て、そんな溜息まじりの電話をかけてきたのは、帯広市在住の随筆家・梅津邦博氏である。

「あのね、梅津さん。世界的巨匠たる細江英公の作品に文句をつけるのは、あんたぐらいのもんでせよ」。

と反省をうながしたが、実は私ももっと近くから、その麗人を拝みたかった。

願えば叶う。三月十一日。所はパレスホテル立川ロビー。三月十一日。所はパレスホテル立川ロビー。吉例えてびあんパーティーお開きまぎわ、噂の宇野女史が私に話しかけてくださった。すぐさま梅津氏のボヤキを伝えたら、さながらパレスのプリンセスのよう、優雅な笑顔をされた。

お話するうちに、俳優の山谷初男氏が女史と私の共通の知人ということが分かったのだ。で、「山谷さんのことをちよこつと書いた僕（ふだんはオレ。気取ったのだ）のエッセイ集と梅津氏の本を郵送します」と言った。

半月後、女史から長文の礼状がきて、それが素晴らしい名文。天は二物も三物も与えるんだなあ、と熟おもった。一部転載のお許しがでたので——

「ねながれ記」、本当に楽しませていただきました。私にとっては



挿画: 野崎義成

「ねながれ喜」でした。なぜかと言いますと、まず森先生と山谷初男さんの即興のダンスを想像してニンマリ喜び、そして森先生のおばあさまが入院された病院の名前を見てびっくり!! 竹口病院!! 実は竹口さんのお子様がヴァイオリンの生徒さんなのです。(略) 付き添いのお母様に「ねながれ記」をお見せしたところ大変喜んで、レッスンの間中なまわすように先生の本を読んでもらいました」。

三十七年前。八十歳の我が祖母は、余命いくばくもないのに某病院から出されることになり、他の市内病院でも受け入れてもらえなかった。癌死寸前、昭島市の竹口病院が快く引き取ってくれたことへの感謝文を、宇野女史と竹口病院の奥様は読まれたのだった。

当時はたちの私は、看病疲れからヒステリックになつていて、「立川の病院はどこもかしこも排抵主義かよ」などと、習いたての言語で事務長たちに食ってかかったのだが、最近はその立て札などに気にかかるものがある。一切の人や動物を普く濟う寺に「野良犬猫忌避剤散布中につき要注意」。武神を祀っている神社が「保安・警備のため夜間閉門」。放火焼亡という事件に遭い糞尿不始末に神経質にもなっているのだろうが、私の幼少時代の普濟寺と諏訪神社は、何事も招き果て(芭蕉)た、全く大様な空間であり、人類のみならず畜類への福祉にも寄与していた。

表紙の人

萱 信一さん(富士見町)

小学生の陸上競技クラブチームとして活発な活動をしているフジミ陸上クラブ監督にして、60代後半の今も走り続ける現役ランナー。中学時代から陸上を始め実業団で活躍。一時競技から遠ざかったが40歳近くから再び走り始め、マスターズ全国駅伝で東京チームを優勝に導いたこともある。小さい時にこそ、すべての運動の基礎となる走ることの楽しさをからだで知ってもらいたい——監督の人柄とのびのびとしたチームの雰囲気から、いまやクラブ員は約100人。週2回に分けて指導する日々だ。市民体育祭で最多総合優勝を誇る富士見町。地域スポーツの縁の下の力持ち役でもある。

多摩川堤防上の遊歩道で  
写真: 細江英公

かたこと

一年間連載を続けてきたくげんき産直 野菜は味方>、半年間連載の<嵐の上から>が本号で最終回となりました▼ご愛読いただいた皆さま、須田享子さん、石崎幸治さん、ご登場いただいた農家・関係者の方々、本当にありがとうございました▼企画が終わるのは編集者にとっても寂しいものです。上空から見た昭和記念公園の四季を半年間に凝縮した<嵐の上から>は一足飛びに晩秋の風景。寂しさに輪をかけてしまったかもしれません▼しかし何ごとにも終わりはありません。まして編集者というのは因果なもので常に次の企画を考えなくてはならない▼8月号からは新企画でお楽しみいただきたいと準備を進めています。どうぞお待ちください▼新しく何かを始めるのは大変なことです。VIEWでご紹介した空手道「佐藤塾」佐藤勝昭さんは20年目にして空手世界選手権大会を実現しました▼武道の心、空手道の魂を大切にしている佐藤さんの信念には、格闘技の商業化への苛立ちもあるようです。そして佐藤さんの思いに共感する空手家が日本だけでなく世界に広がっていると思うと嬉しくなります▼対談をさせていただいた福富一郎さんは「笑い」を仕掛ける作家・企画者。笑う門には福来ると言うように、笑いには大きな力があるのです。えくてびあんにもそんなエネルギーがあるかな? (芳)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子  
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)  
AMNET design factory  
写真 五来孝平

えくてびあん (C) 7月号

第23巻 通巻248号  
平成17年7月1日発行  
発行 えくてびあん編集工房  
〒190-0012  
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F  
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065  
編集人 芳賀敏博  
発行人 加賀悦也  
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

# 風の上から

写真家 石崎幸治 の  
昭和記念公園

最終回



みんなの原っぱの晩秋。カイトフォトを撮り始めた頃の「原点」というべき情景だ。

## 夢と工夫と人の輪がひろがる

初めは上空から写真が撮れるだけで満足だった。だんだん欲が出てきて空から見て面白い、意味のある遺跡やお城の写真撮りたくなった。しかし、考えようによっては面白くないと思った風景でも何十年も経てば意味のある写真になる。毎年同じ場所撮影したカイトフォトが何枚も連続すれば、時代の流れがわかる立派な記録写真になるだろう。

カメラをラインから吊り下げる装置(リグ)は自分で工夫して作る。私のは一番簡単で角度は固定、シャッターもカメラ任せだ。機械に詳しい人は地上から無線でシャッターを切る装置を考えたり、常にカメラが水平を保つ道具を作っている。カメラをバースさせて写真を撮り、パソコンでパノラマ写真に作り上げることもできるらしい。

無人の装置を使って空から鳥の眼で見たような写真を撮る。風をはじめ気球、ラジコンヘリコプター、カイトブレーンなど方法もいろいろある。そんな同好の士が集まってワイワイと自分の装置の自慢と情報交換をする。カイトフォトを通じてひろがった人の輪も、人生の幸せのひとつである。